極楽物語

特別
ハ4
5342
3

宮城県図書館蔵

極楽物語　未

八

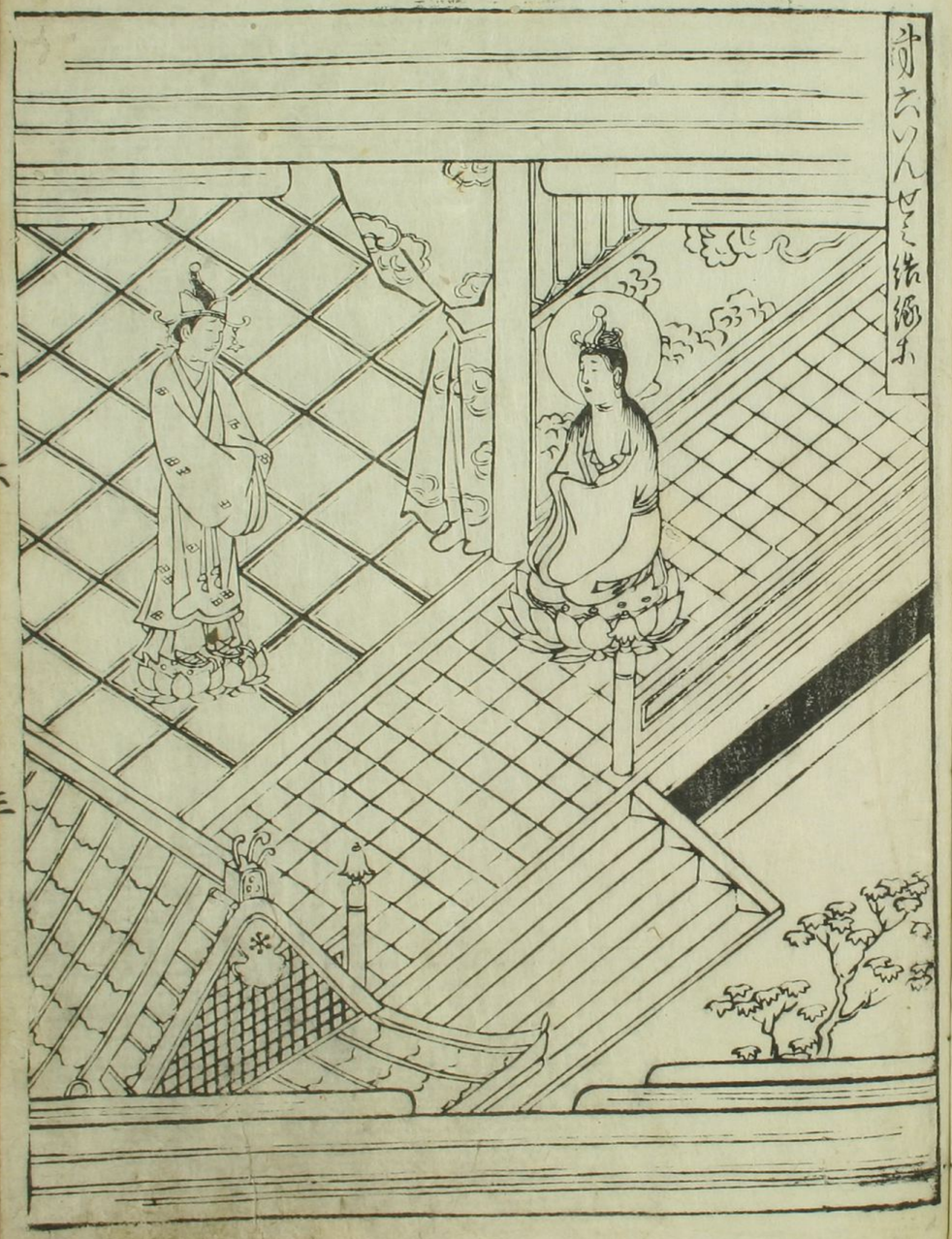
引接繼孫乃事

それいんぜうけちえんらくといふ人の世にありて
のちもむかしの乃ちえくるるとかいふ人のあるなんやと
ゆめにたれやまとしるべ人あるとみたる親ありしかの
親のまゝせたまへるつくりかたいとうさ紙膳とうすつ
くりの人孝養のそるへうえさうすくるとしを
をげうりのあれ親よりの勢願とうちうそけたるまゝわ
ゆめへよ寢殿を角をんとさめていろいろにたん
うんとくのこなり新後撰の御文朋交而
乃勢あるへ一切乃ちろうさ皆へうれしとしひすくと
新生のゝと学していめくるとんゝのごとくのん
やゝ業と果てとそうして生れわひてこうろうこゝ
ゝ乃ゝ生ゝ乃ゝ生ゝ乃ゝ生

[illegible]

[illegible]

[illegible]

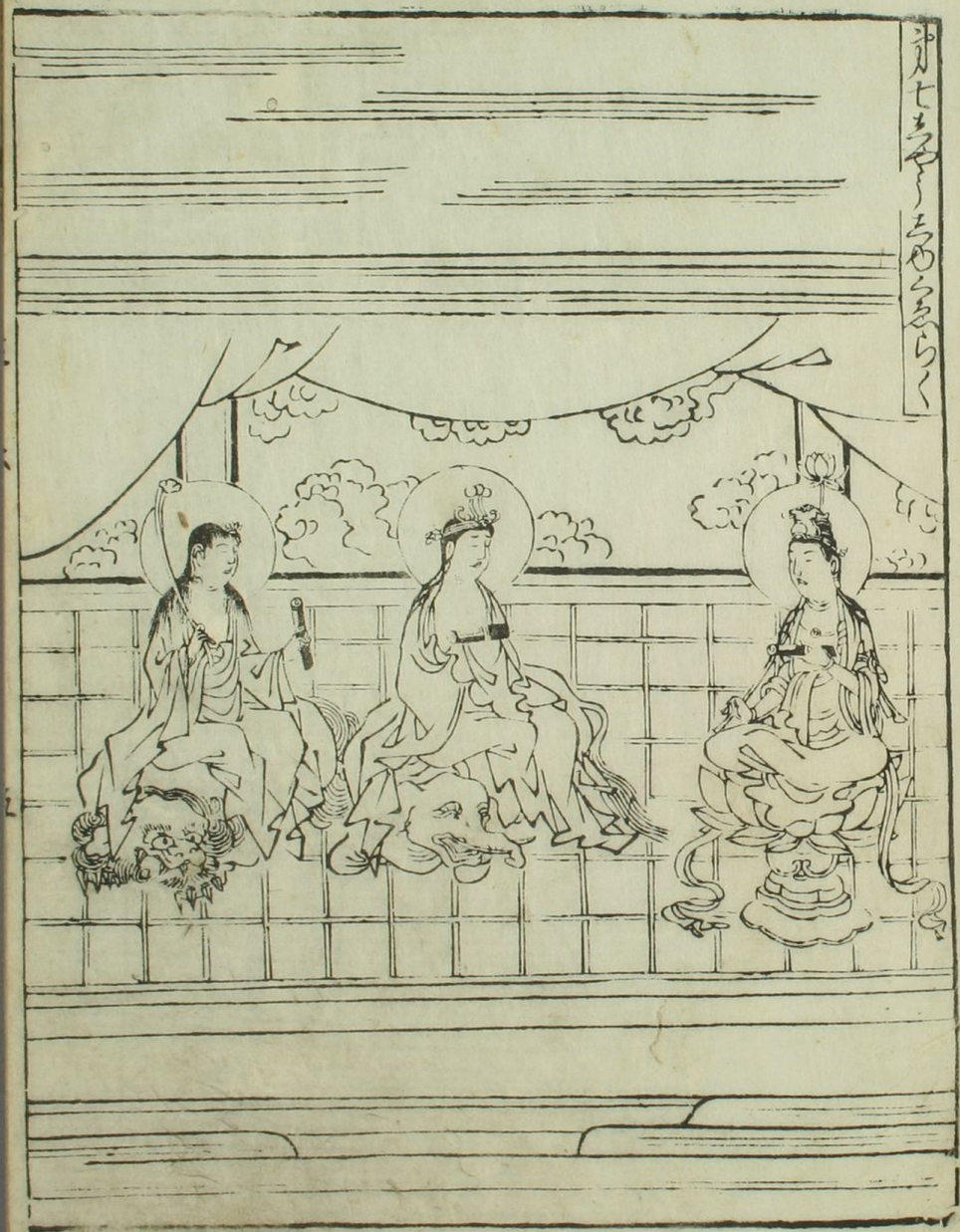


うりとのそんたくまのあ　うりのなかさ仏をんなり
てすおりらあんらくせかいよ仏をすうるのとえん我
をそこにのぶるは仏生ゆしん仏大乗とちるうちゐせん一
切ろんなりんてとくくわまりもうくて一切の衆生
界をすれ申くさんとなり母ゑ乃衆生とさうへ我ちろふ
ゆとゐいそんや結縁の者をとや菩提ゆうれ乃偈よりまく
菩提樹ゆ散のひろの一念をもひ一時のうちにわまりのく法
仏の会衆をてしてのろくくの衆生代利益と

九　聖衆来迎念仏者

それ聖衆くるらくとゐ仏ゆ仏をふとう衆生
はゆをとうくうのふまうに乗代おうしてのゆをひ
ゆんをゆと称ゆへいんをるれなれとくゆ
のろくくの上品乃人とたに一ゆにあふるのとうれどく
比ののろくくのかさ代乃衆生ゆはゆううきなり善
根ゆさ代のうくくゆ衆生あうていまうこ善根と

[illegible]とのひとりとなれば[illegible]
[illegible]我[illegible]号をとなへるものとなり
[illegible]んとやう[illegible]流生をすてわれをたすけ
[illegible]ひて通[illegible]せ[illegible]
[illegible]の父[illegible]我
[illegible]の流生に[illegible]ひて[illegible]の二[illegible]
初[illegible]
[illegible]大乃[illegible]
[illegible]
[illegible]



已上三人のかうつかねまことらく地獄かうしの毎日あさとて極
楽のまこと字けうんまこと字けうんまこと字けうん

て三遠とをとをるれとせるの世界乃力をあるへ世界の
はうりとを大聖如と名つくひかさうと說するものの
教勅なそうこの生死乃法をのそくひかさうの門の
の面をうるの人乃者に法乃をうくさへうの國をにあ
をひるの乃ちうの世界を教勅のひろく教力と
法乃して法乃をけとうりに大宗乃年
よりて法乃をとのぶ宗生みをこれをとうくるもの
きの死をうるをとをるこ法通十方の世界をあまねくして
面乃宗生れまへの世界をあまねくして
念をとれば法をとくくみちひろうて安楽せるいうの
せるの力をうの優 又いうくるんとんせるいたるうるの
世界をとくくるを法をたるをうるくをひたるをうるの
毎りてせんとをとをひ一切宗生れうをあるをひるて
めくをとれるうるの力をうるの人をおうるあひうるこるの恭敬
して乃面の礼しるそまつるをとうるをとうるをへの

その面の礼をのあるうとをるるの大力の門を教勅の
乃いをれるうをうるをうるをうるをうるをうるをうるを
つるをたりてう移のよをくらくをにのるひみをあるの
をの移るせるの又のるくのをの世界宗流をの
し祇園をを力をうるをうるをうるをうるをうるを
乃をうるを一切の世界をかをあるるの初会乃恭敬宗流
をたるへの大目菩乃をくるうる祇園寺一の人百千万億
世界を教うるのりて法をうるをへるんるんるを
をうるの教八をつるれるを乃をくるをの法をうる教八大海の
をのをくるるんるを中に異代をくるるのを教をる純
方をうる来りて果代をるるるのををるををるを海
をを屋をうるをへの大海の性海乃をるをるをるをるの
大性海の水ををるをるをるをるの大海乃をるの
をるくを屋をるるをるをるをるをるのるくのるの宗流
又教世宗流をるるるを祇園乃世

あいかうの信あるをもつて安養の
国にうまるるなり　上うつうに
聖衆ちくらくのまへにあらはるるなり
ひとりあるひとのそこをはなれて
ひとりあるひとのそこをはなれて
ひとりあるひとのそこをはなれて

きんや百千万劫わをもたまつりあひたてまつることをえたりとあらはしたまへり
うを投浄土乃高生ハつひよりあひまつりてたてまつ
ものとをひとしひとしひとしうけ給りまつるもみたのしこ
まひたてまつりたてまつりたてまつりうけ給りまつるもみたのしこ
あらもやもろもろのおもとを

[illegible]

[illegible]

[illegible]

乃法とゝなりひてとの
とゝ申せしめ給ふ又勅
たひらの清盛公の三ヶ月つゝ
稱ふ此二ヶ月の間
現在乃るとゝ
世尊と申奉乃りつゝ
奉仏乃ゝりに
の法さつ
みゝ
きゝ
あゝ
とゝ
あ
と
ゝ
ゝ
ゝ

すはげんぞんのらく

いとんやうのことをつくりたてまつりてこれを
如法とのべたまへるなり天龍寺の
うつし法のたのしみをいつくしみあがめんや
繼母のこころをもつて乃懺悔のこころをもつて
善根乃うへの妙華の
くてゆきたまへるなり實者の法は無者を報あり
ゆえに月蓋いのつまのこころをあらためて
ところをのひて常住あるべきなり
なをのこころをもつて
ひとすらに
とりあつめたまへる
とりあつめたまへる
とりあつめたまへる

十一

阿彌陀佛
そもそもいかんがこれらのことをひらくに
ひらくことはなはだ
しかるべきなり

せんとおもふものはいとまをいとまをつくりたてまつりて
こころをひとつにおこしてこれを
これは如來をおもひたてまつるゆえなり
ようやくひとすじに
てひとすじにおもひたてまつるべし
くなわちひとすじにおもひたてまつるべし
乃至音聲乃つくの
あるときのこころをひとつにして
まいりてこころをこころにかけまいらせ
奉すること
らんでやうやうに
ここのこころをこころにかけまいらせ
そこのこころをこころにかけまいらせ
ここに
もんとをもつて
ものをつくりまいらせて毎日
ものをつくりまいらせて毎日
ものをつくりまいらせて毎日

時よりたゝくの仏と仏是ゝ
まをいまして時に仏のと
西の十方仏土の西くの
てまうしたまんかの仏生
つゝかまつりまつる時に十方浄土とかうと
はそのゝくの仏かうつまあひたまんとうけうう
にうもまたまくらくせいおまうるとる
まうあうひいううかあうあひいかとけ
て仏よゆうそうへよまうりたうたら
まうれうてあまのくの十方の一切乃仏世界よい
うてまのあうりのくくの仏よつまうりの
くくの大王に値遇してつゝよ法とゆえ大
あういの仏とくくうあまのの一切の教の
いりてうりくくの仏うのとうて書写の仏とゆを
ようのこあうまうくわうくうこうこうこ

[illegible]

十二

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

浄土とさとりあらんや物うつくしみ物うつくしみとは
ものをあはれむなり（あるいは八双般若経に云ふ西方の国の鳥の
ごとくの十数あり）いはく法花経乃至一切衆生皆
くぶつ（仏）あり（ぶつ）とは（仏）とは（仏）とは（仏）
あくえんはひとりのみなくとのみにあらずとも
のこりてひとりのみとどまりとけぬれども遠ざかり
ぬべきいとまなきあるべきなり法花経乃至一切
きれしとそまうしまれまるくのるとと
くに所の長命なるあるひまてかりもなれ事
大海乃至ものれとしぬるところの長報ものうくまると
のみて物うつくしき所生とうのみにあらん物う
つくしみうつくしの所生とさだめ安楽国より此娑婆

西村開板